

通勤災害用

障害給付支給請求書
障害特別支給年金支給申請書

① 労働保険番号
② 年金証書の番号
③ 氏名 (男・女)
④ 負傷又は発病年月日
⑤ 傷病の治癒した年月日
⑥ 平均賃金
⑦ 特別給与の総額(年額)

⑧ 通勤災害に関する事項
⑨ 厚生年金保険等の受給関係
年金の種類等
年金の種別
支給される年金の種類等

③の者については、⑥及び⑦並びに⑨の①及び②並びに別紙1の①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧(通常の通勤の経路及び方法に限る。)及び⑨に記載したとおりであることを証明します。

現時点の案です。
確定様式ではありません。

事業の名称
事業場の所在地
事業主の氏名
[注意] 別紙1の①、②及び③について知り得なかった場合には証明する必要がないので、知り得なかった事項の符号を消すこと。

⑩ 障害部位及び状態
⑪ 既存障害がある場合にはその部位及び状態
⑫ 添付する書類名
⑬ 年金の払渡しを希望する金融機関

障害給付の支給を請求します。
上記により 障害特別支給年金
障害特別年金の支給を申請します。
障害特別一時金

労働基準監督署長 殿
請求人申請人の住所
氏名
個人番号

振込を希望する金融機関の名称
預金の種類及び口座番号
銀行・金庫
農協・漁協・信組

様式第16号の7（裏面）

〔注意〕

- 1 ※印欄には記載しないこと。
- 2 事項を選択する場合には、該当する事項を○で囲むこと。
- 3 請求人(申請人)が傷病年金を受けていた者であるときは、①、④及び⑧の別紙1には記載する必要はないこと。
- 4 請求人(申請人)が特別加入者であるときは、⑥には、その者の給付基礎日額を記載すること。④、⑧の別紙1の㊦から㊨まで、㊩及び㊪の事項を証明することができる書類その他の資料を添えること。
- 5 ③については、障害年金又は障害特別年金の支給を受けることとなる場合において、払渡しを金融機関(郵便貯金銀行の支店等を除く。)から受けることを希望する者にあつては「金融機関(郵便貯金銀行の支店等を除く。)」欄に、郵便貯金銀行の支店等又は郵便局から受けることを希望する者にあつては「郵便貯金銀行の支店等又は郵便局」欄にそれぞれ記載すること。なお、郵便貯金銀行の支店等又は郵便局から払渡しを受けることを希望する場合であつて振込によらないときは、「預金通帳の記号番号」の欄は記載する必要はないこと。
- 6 ⑥については、平均賃金の算定基礎期間中に業務外の傷病の療養のため休業した期間が含まれている場合に、当該平均賃金に相当する額がその期間の日数及びその期間中の賃金を業務上の傷病の療養のため休業した期間の日数及びその期間中の賃金とみなして算定した平均賃金に相当する額に満たないときは、当該みなして算定した平均賃金に相当する額を記載すること。(様式第16号の6別紙に内訳を記載し添付すること。ただし、すでに提出されている場合を除く。)
- 7 ⑦については、負傷又は発病の日以前一年間(雇入後一年に満たない者については、雇入後の期間)に支払われた労働基準法第十二条第四項の三箇月を超える期間ごとに支払われる賃金の総額を記載すること。(5の括弧内と同じ。)
- 8 ③の労働者の所属事業場名称・所在地欄には、労働者の直接所属する事業場が一括適用の取扱いを受けている場合に、労働者が直接所属する支店、工事現場等を記載すること。
- 9 「事業主の氏名」の欄、「請求人(申請人)の氏名」の欄は、記名押印することに代えて、自筆による署名をすることができる。
- 10 「個人番号」の欄については、請求人(申請人)の個人番号を記載すること。

社会保険 労務士 記載欄	作成年月日・提出代行者・事務代理者の表示	氏名	電話番号
		Ⓣ	( ) —

現時点の案です。  
確定様式では  
ありません。

## 通勤災害に関する事項

<b>イ</b> 労働者の氏名						
<b>ロ</b> 災害時の通勤の種別 (該当する記号を記入)		イ. 住居から就業の場所への移動 ハ. 就業の場所から他の就業の場所への移動 ニ. 先に先行する住居間の移動	ロ. 就業の場所から住居への移動 ホ. ロに後続する住居間の移動			
<b>ハ</b> 負傷又は発病の年月日及び時刻	年	月	日	午 前後	時	分頃
<b>ニ</b> 災害発生 の 場 所						
<b>ホ</b> 就 業 の 場 所 (災害時の通勤の種別がハに該当する場合は移動の終点たる就業の場所)						
<b>ヘ</b> 就業開始の予定年月日及び時刻 (災害時の通勤の種別がイ、ニ又はホに該当する場合は記載すること)	年	月	日	午 前後	時	分頃
<b>ト</b> 住居を離れた年月日及び時刻 (災害時の通勤の種別がイ、ニ又はホに該当する場合は記載すること)	年	月	日	午 前後	時	分頃
<b>チ</b> 就業終了の年月日及び時刻 (災害時の通勤の種別がロ、ハ又はホに該当する場合は記載すること)	年	月	日	午 前後	時	分頃
<b>リ</b> 就業の場所を離れた年月日及び時刻 (災害時の通勤の種別がロ又はハに該当する場合は記載すること)	年	月	日	午 前後	時	分頃
<b>ヌ</b> 災害時の通勤の種別、経路、時間、発生場所、発生時刻、発生状況	<div style="font-size: 2em; opacity: 0.5; position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); pointer-events: none;">                         時点の案です。                          定様式では                          ありません。                     </div> (通常の移動の所要時間 時間 分)					
<b>ル</b> 災害の原因及び発生状況	<div style="font-size: 2em; opacity: 0.5; position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); pointer-events: none;">                         時点の案です。                          定様式では                          ありません。                     </div>					
<b>ヲ</b> 現 認 者 の	住 所					
	氏 名	電話 - -				
<b>ワ</b> 転任の事実の有無(災害時の通勤の種別がニ又はホに該当する場合)	有	無	<b>カ</b> 転任の直前の住居に係る住所			

〔注意〕

1. ④は、災害時の通勤の種別がハの場合には、移動の終点たる就業の場所における就業開始の予定年月日及び時刻を、ニの場合には、後続するイの移動の終点たる就業の場所における就業開始の予定の年月日及び時刻を記載すること。
2. ⑤は、災害時の通勤の種別がハの場合には、移動の起点たる就業の場所における就業終了の年月日及び時刻を、ホの場合には、先行するロの移動の起点たる就業の場所における就業終了の年月日及び時刻を記載すること。
3. ⑥は、災害時の通勤の種別がハの場合には、移動の起点たる就業の場所を離れた年月日及び時刻を記載すること。
4. ⑧は、通常の通勤の経路を図示し、災害発生場所及び災害の発生の日に住居又は就業の場所から災害発生場所に至った経路を朱線等を用いてわかりやすく記載するとともに、その他の事項についてもできるだけ詳細に記載すること。
5. ⑩は、どのような場所を、どのような方法で移動している際に、どのような物で又はどのような状況においてどのようにして災害が発生したかを簡明に記載すること。

# 診 断 書

氏 名		生年月日	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	性別	男・女
傷 病 名		負傷発病年月日		年 月 日		
障 害 の 部 位		初 診 年 月 日		年 月 日		
既 往 症		既存障害		治 癒 年 月 日		年 月 日

療養の内容及び経過	
-----------	--

障害の状態の詳細	<h2 style="font-size: 2em; color: gray;">現時点の案です。 確定様式ではありません。 ありません。</h2>
----------	--

関節運動範囲	部位	種類範囲																	
		右																	
		左																	
		右																	
		左																	
		右																	
		左																	

上記のとおり診断します。

〒 \_\_\_\_\_ 電話番号( ) \_\_\_\_\_

病院又は \_\_\_\_\_ 所在地 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 年 月 日 診療所の 名 称 \_\_\_\_\_

診療担当者 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_

(記名押印又は署名)